

オウム真理教について

主な凶悪事件

オウム真理教は過去に、下記の凶悪事件を引き起こしています。

事件名	発生日	死者及び負傷者数
弁護士一家殺害事件(殺人)	平成元年11月4日	死者3人
松本サリン事件(殺人・殺人未遂)	平成6年6月27日	死者8人 負傷者約140人
公証役場事務長逮捕・監禁致死事件(逮捕監禁致死・死体損壊)	平成7年2月28日	死者1人
地下鉄サリン事件(殺人・殺人未遂)	平成7年3月20日	死者13人 負傷者5,800人以上(※) ※ オウム真理教犯罪被害者等を救済するための給付金の支給に関する法律に基づき給付金の支給を受けた被害者数

教団の現状と組織の拡大動向

- 教団は現在、
 - 麻原彰晃こと松本智津夫への絶対的帰依を強調する主流派「Aleph(アレフ)」
 - 松本智津夫の影響がないかのように装って活動する上祐派「ひかりの輪」
 などに分かれて活動しており、両派合わせて15都道府県に32か所の拠点施設を有しています。
- また、両派は組織拡大のため、
 - 主流派「Aleph(アレフ)」
教団名を秘して街頭や書店での声かけ、SNS等で青年層を中心に接触を図りヨガ教室へ勧誘
 - 上祐派「ひかりの輪」
上祐代表説法会や神社仏閣を訪問する聖地修行等を、ウェブサイトを通じて参加を呼びかけるなどにより、それぞれ信者の獲得を図っています。

～ 全国の拠点施設等 ～



札幌市東区の上祐派施設はなくなりました。

【事例】主流派「Aleph(アレフ)」による勧誘活動

導入

- 教団による一連の事件を知らない青年層を中心
- 街頭や書店での声かけ、SNSや友人等を通じ、宗教やヨガ等に興味を持つ者に接近、喫茶店等で接触

人間関係の構築

- 教団名を秘したまま、十数回にわたり宗教やヨガ等を講義
- 被勧誘者の関心や悩みを聞き出し、相談を受けながら、人間関係を構築

入信

- 教団による一連の事件は国家ぐるみの陰謀と説明
- 松本の偉大性等を講義
- 教団に対する抵抗感がないことを確認した上で教団名を告知し、入信させる

オウム真理教対策

- 教団は、依然として松本及び同人が説く教義を存在の基盤とするなど、その本質に変化がないと認められることから、警察では、無差別大量殺人行為を再び起こさせないため、引き続き、教団の実態解明と組織的違法行為に対する厳正な取締りを推進しています。
- また、教団が引き起こした凶悪事件から20年以上が経過し、凶悪事件の記憶の風化が懸念されるため、積極的な広報活動を実施して事件等の風化防止措置を講じていきます。

釧路方面厚岸警察署